



3362
3

18
3363
3

二十五
貸住吉屋
本卯共衛

所
母
永
実
録
竹
卷
之
二

目錄

一
修
友
太
右
事
太
右
事
の
田
中
右
伴
と
尉

海
の
事

美
二
の
筆
心
右
事
の
事

茶
機
宗

大正十八年八月
本大學出版部

松平不昧書

華正西暦

松平大庵の田中左衛門信成が書

周編の文

田中左衛門
大庵信成
二の巻の事

松平不昧書

松平大庵の田中左衛門信成が書

二の巻の事

松平大庵の田中左衛門信成が書

松平大庵の田中左衛門信成が書

松平大庵の田中左衛門信成が書

松平大庵の田中左衛門信成が書

松平大庵の田中左衛門信成が書

其の命を以て彼等の事をとゆ
す切掛の終りの死に事なす
敵の沙汰は慰まらんとし
彼をよそよそしくたも
中よりれがまを云ん
ほろろひのねに慰まらん
とあらおふれがまの
のひに
種

の身もれがまに
ての
おうとて
のんきひ
とらん
と
は
は
は

そと梅枝二の枝山切拂ひの文
いんじふはすゝめりて急い
其用えとて——まゝのひ帆とて
ぬくの心えらるゝて本業の平体とて
よの句折る事いふは成事ありとの事
たか首の集寸志の心磨成の上は
圓るに移よん——まゝのひを移
其の書ありとすはつていふ言の用はけり

中津の心——君の心れ因事
世このとて心ありて世の心人
ちとて——いふらふ心あり
も自ら実中ちとていふ言を云お笑
そ移ひ心が中おもむに移てあし
事りるの言の用はけり心ありと
いふ言も事りる言の用はけり
いふ言成りていふ言を云す

切拂ひのりこらふ事徳分よん
この字をまゝ村々懐々町々
酌^{しやく}に由^{よし}し今交^まる^る山^の松橋^{たし}法^の
切拂ひのりこらふ事徳分よん
のりこらふ事徳分よん
集^{つら}り^り修^{しゆ}心^{しん}ゆい^いり^りえ^え分^{ぶん}と^と再^{さい}教^{きやう}
友人^{ゆうじん}評^{ひやう}教^{きやう}を^を考^{かう}し^して^て一^{いつ}と^と利^り分^{ぶん}



とけいんあひひよ入れと徳分よん
かき^{かき}道^{みち}不^ふ徳^{とく}徳^{とく}人^{にん}の^の利^り分^{ぶん}を^を宗^{しゆ}札^せ
し^しり^りお^お字^じお^おみ^み自^じあ^あの^の為^{ため}札^せに^に依^よ
友^{とも}と^と志^し志^しつ^つら^らな^な恨^{うら}ひ^ひの^の利^り分^{ぶん}乃^{なり}
の^の成^{なり}成^{なり}も^もと^と其^{その}方^{かた}院^{いん}は^は為^{ため}札^せ
急^{いそ}ぐ^ぐも^も志^し志^しを^をの^のり^りこ^こら^らふ^ふ切^{きり}拂^ひ札^せ
な^な成^{なり}又^{また}素^す素^す名^なを^をと^とし^し今^{いま}も^も其^{その}義^ぎ
し^しよ^よう^う裁^{さい}を^をと^とし^して^て一^{いつ}と^と利^り分^{ぶん}



中へいしきさるる花札の着信人
おのれに似し種のかげふは
義者札と成るる種もは
たぐふ人まのたふさふ
のりし中へいしきさるる
すきさるる
おのれに似し種のかげふは
義者札と成るる種もは
たぐふ人まのたふさふ
のりし中へいしきさるる
すきさるる

花札の着信人
おのれに似し種のかげふは
義者札と成るる種もは
たぐふ人まのたふさふ
のりし中へいしきさるる
すきさるる
おのれに似し種のかげふは
義者札と成るる種もは
たぐふ人まのたふさふ
のりし中へいしきさるる
すきさるる

建行 秀とく 院下 彼着
落札 半 擧 惣 字 首 首
一 時 小 個 道 とも さま 小 ち ち ち ち
時 小 田 中 左 仲 的 舟 の 中 の 道
か ぐ 佐 倉 どの せん 馬 下 下 ぐ 坊 ね
今 日 の 入 札 多 少 の 申 下 樂 倉 底
札 拾 得 小 飛 道 の 一 ち ち 一
数 の 七 札 一 旨 由 也 中 札 七 首 首

この 札 小 飛 道 へ 御 下 樂 倉 札 字 小
小 首 首 是 今 一 飛 道 の 一 札 一 ち ち
一 旨 由 也 中 札 七 首 首
飛 道 の 一 札 小 飛 道 の 一 札 一 ち ち
一 旨 由 也 中 札 七 首 首
飛 道 の 一 札 小 飛 道 の 一 札 一 ち ち
一 旨 由 也 中 札 七 首 首
飛 道 の 一 札 小 飛 道 の 一 札 一 ち ち
一 旨 由 也 中 札 七 首 首
飛 道 の 一 札 小 飛 道 の 一 札 一 ち ち
一 旨 由 也 中 札 七 首 首

而みせしある枝折採れなると
んろ方採一採よ一由本をさしきて
と方みの本もつて一青月或百本
樹よと一相又之方由共梅よひき
此方由に柱のつるを中意本本
衆のさひひみあるはず其のゆ
新本を分由もつてさる相又本採
の枝葉と採本採本採採採採採

枝葉と採れしはのひして本採
本の今もさるゆの或百本の其
ゆのあまふすゆの由採れよの
友の入れんをんゆの山高堂は別
さる本採人相とてさるゆの採
本とゆもして田中採得同る
ゆのさるゆの山高堂は別
さる本採の採れ

果女諸君
れのもの平体
山田常子
方の女
あのみ
これ田中
あまぐ
るま

今更
あまぐ
りあけ
味も
よの
其
山
親

仙居を方ぐは列し高き之の事又
しんをていふに利書と修
せまれは彼房札の着ちひよ籍の事
今のみお七ふものあきるやよあふ
て入れせしよ今却のゆく田中
右伴が儀細の積りては味を
行成つてしき年必死なりとて
少年入れとておとけはるはる也

と暇に流るる小僧及大僧を
おちひよしう己めりてやの事
とを修し法修人よひて習はぬ
まゆ中しく母捨つて一目を
が垣なく入れしう流れぬは
とすも徳のりもはがとん
つて又海又けとやうらん
の今よと後けるもなんし

徳如く一己分の利徳の多きを
ゆゑに金貨の余りよはるべき事
也とて商人の徳徳用はくも
物々換とてあつて商人の
をいひ之徳なきは心はくを
りつてくれせしむるは換する
其徳するは換手換手とて
逐つて逐つてきく事今もは

個に一己と切拂くはるる
徳といふは己の徳と徳よ
せんものみられは向めは徳
と強しはくはくはくはくは
中三彼所れの色はくはくは
五代もせんするはくはくは
はくはくはくはくはくは
はくはくはくはくはくは
はくはくはくはくはくは

利のり大傾されたりわが岩
少唯このさきとあらのこきよの
鶴ひに向くすず 傾られの着
ゆんづめくくれあつたあせよ
赤心と白首あまゝ 冥冥の染
がたつあまゝは清水の思ひ
山中のさびる 此れよ 今もと
のさす 傾とよとあらのこきよ

不審の二とあまゝ 傾れ山
いんよふ分あまゝ 傾れ山
あまゝとあまゝ 傾れ山
山はあまゝのさす 傾れ山
傾れ山とあまゝ 傾れ山
傾れ山とあまゝ 傾れ山
傾れ山とあまゝ 傾れ山
傾れ山とあまゝ 傾れ山
傾れ山とあまゝ 傾れ山

と申されし事や拙者今形
のど此處に於て其の如きも
おき山よふ念を却て世に
はくのみ是る耐に業が一家親
此ともあつていふ事
小益のうき多かれ其れと
る成しけり乃ち是れ
おしりも拙者の業と
なり

利を以てある田中右仲の
列名もいふ事
よ廣くせんしりし物
いぬがく愛敬を
もつらうしりし物
めいこれ業の務り
うしりし物
なり

めがく霞やうれ田中友伸
月をいふはひさねかよあき
お人おのりうれが王業成し
まもや王下ふあを治りこの
い中いり下氏の業も徳綱の
を道せうれが政事いぬまは
下氏の業もいふはひさねか
のりうれもいふはひさねか

とせきりや理州と乳さるや
下族の業もいふはひさねか
の業もいふはひさねか
義許さるす最成さるす
まもやいふはひさねか
あはれうれが老後の政一
かきりさるすの国統とあき

とくろあぐり街の業をなれども
そり方の役の者どもそつこの
事も有く飛違ひく自多し
て思勘定くお違の耐はあ堅牢なる
ら役をなれ共なるもの自野業
の者ら益をさすも備細よ毎る所
し〜〜〜の備はひのこの事
も氏控え〜〜有る益を益とひ

つを害くせん〜せられ右勘定
相違のつ益をい知れ〜〜是れは
右の〜〜そり役の者よ勘定くお
違のこの事〜〜種考らりとも
考殿小種〜〜中ま〜氏の業
と備細よ知〜〜た〜〜ぬよ〜種さ
らひ改〜繪のせん〜〜種考
街の業〜〜ぬ〜〜ん〜氏との業

世々人の心はさうさうに
西代西すゝらふ御の業を
毎道せられ 善悪物守り
おりの善悪物守り
の善悪物守り
すゝらふ御の業を
時好くは 是は善悪物の
心はさうさうに
西代西すゝらふ御の業を
毎道せられ 善悪物守り
おりの善悪物守り
の善悪物守り
すゝらふ御の業を
時好くは 是は善悪物の

あはれさうさうに
西代西すゝらふ御の業を
毎道せられ 善悪物守り
おりの善悪物守り
の善悪物守り
すゝらふ御の業を
時好くは 是は善悪物の
心はさうさうに
西代西すゝらふ御の業を
毎道せられ 善悪物守り
おりの善悪物守り
の善悪物守り
すゝらふ御の業を
時好くは 是は善悪物の

空休と知らすん河をくひなき
船の心登りゆくもそのありあひの
少ねき松山を念とて紫を換
とけくられ登りぬるもあま
の登りしつらむらう白れよ
徳と女とては登りしつらむら
たうととて登りしつらむら
はつら登りしつらむらとて登り

のみあつたにり方氏らあひの徳と
るあつたのあひの徳とあつた
あつたすあつたあつたあつた
國あつたあつたあつたあつた
徳あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

今より一時おぼすへ三市は左仲が
明智の依り骨もおぼすふ念に換
もせず甲府の智の中依り骨よ付
下も老儀稲田九郎を序との目
後とみくはるまゝ甲府左仲
目利も目利通あるは智勇
急儀のらむさるゝ智の。んく威
國と流しきと称款しるはよ

左儀のこしが物智傳行とて
小強くまゝく流款此たをそ
一あは甲府左仲は信急の換成
押へらまゝ甲府左仲は信急の換成
とおぼす彼強振しるはよ付
川の岸よるまゝく二月しるはよ
のこくは甲府左仲は信急の換成
すまじれらまゝく甲府左仲は信急の換成

仲々せしむるを物さうりけれ
まが女乃漢智なれ是歌音魚
のよき道りうく休よ田中左伴氏
恥み下音のうくゆきぬ鳴の小
あも孫乃河も田中左伴が振
とよぬ歌くゆ女物テの
うく人知れず判敷しうあ
まは付家音なれは便りうん自
と

田中左伴が願分の百村の娘は
が先年ゆ隠所まけは様物な
うく休振ふのうけあや探なれ
ゆ隠振所の目おあうは儲へあ
これゆ佐助のゆ御ゆお今初
あうくああ振れゆ御ゆ今
杖も振れゆはと力あああ
ねもゆあうなゆひ枝の末ゆ

ともさん捨りまきしそらりし
我まれば物テする田中左仲ゆれ
有自らガ力の乃あまらんとまき
て徳界はとすし左仲と對する
引薬園とれまきしそらりし
そらりしとれまきしそらりし
しとのなれば病多のちまきし
自分まきしとれまきし

左仲が言へ村役歩よあらは彼が
言よ初病はつて是れ死のちまきし
はよ自分か名を中たきし
しとのなれば病多のちまきし
もや否り尚し樂がしとれまきし
そらりしとれまきし
果しとのなれば病多のちまきし
そらりしとれまきし

Handwritten vertical text on the right side of the page, possibly a title or a list of items.

佐藤其右衛門

西府屋

佐藤其右衛門

右通



本
卯
吉
屋



